

ただいま、中神議員から、これまでの3期12年の市政運営の総括、そして今後の進退についての御質問をいただきましたので、順次お答えをしたいと思います。

初めに、御質問の1点目、これまでの3期12年の市政運営の総括について、私は、平成27年4月から、第3代目の田原市長として、今日まで市政運営をしてまいりました。

就任当初に掲げた“渥美半島を元気に！”という強い思いのもと、市政運営に邁進してまいりました。

さて、この3期を振り返りますと、1期目の就任時には、少子高齢化や人口減少社会への対応を図るため、国・地方が一体となって地方創生への取組が始まろうとしている時でした。

私は、誰もが「安心して住める」「住んで楽しい」と思えるようなまちづくりを進めたい、との思いから、まずは「①地元産業の活性化」、「②教育環境の拡充」、「③医療・防災の見直し」に着手いたしました。

1期目では、本市の基幹産業である農業の推進を図るため、土地の基盤整備に加え、産地パワーアップ事業や畜産クラスター事業などを展開してまいりました。平成28年4月には、各省庁への要望やPR活動の充実を図り、本市のシティセールスを推進するために、田原市東京事務所を開設いたしました。

また、若者が魅力あるこの田原市に住んでいただけるよう定住・移住促進奨励金制度を創設いたしました。さらに、サーフィンを切り口としたサーフタウン構想の策定や世界大会の開催など、渥美半島における交流人口の拡大に取り組んでまいりました。

私は、ロングビーチの素晴らしさを世界に広げたいとの強い思いと、東京オリンピックのサーフィン会場の誘致を併せて考えた時に、世界各国からトップサーファーが集まるサーフィンの世界最高峰の大会であるワールドサーフィンゲームスの誘致しかないと思い立ち、自ら国際サーフィン連盟のフェルナンド会長へ直談判し、平成30年にワールドサーフィンゲームスの開催が決まった訳であります。

東京オリンピックの誘致は叶いませんでしたが、このワールドサーフィンゲームスの開催が世界の人々に対し、田原に目を向けていただく絶好の機会になったものと思います。

教育環境の拡充では、平成28年4月に田原中学校と野田中学校の統合を皮切りに、福江中学校と伊良湖岬中学校の統合や、365日保育の実施を進めてまいりました。医療・防災の見直しでは、赤羽根地域に、赤羽根診療所を開設するとともに、第2次医療機関である渥美病院に対しては、質の高い医療機能の維持・充実を図るための運営支援を行い、市民のための地域医療体制の充実

を図ってまいりました。

さらに、地震・津波対策の強化を図るため、堀切地区における津波避難マウ
ンドの整備をはじめ、自主防災組織の強化や消防団詰所の整備など、災害に強
いまちづくりを進めてまいりました。

1期目の終わりから2期目の始めにかけては、市内養豚場における豚熱の発
生や、新型コロナウイルスの蔓延による外出自粛等により、市内の経済が落ち
込みました。しかしながら、「たはら暮らし応援商品券」の交付や「プレミア
ム付き商品券」の発行支援、農業経営に向けた支援などを迅速に実施し、地域
経済の回復に努めてまいりました。

2期目では、四つの柱として、「①地域の特色を活かした産業の振興」、「②
出産・子育て・教育環境の充実」、「③福祉・医療の充実」、さらに「④安心・
安全で快適なまちづくり」を掲げました。

この4つの柱を基本とし、平成30年には、三河田原駅前に商業施設ラグラ
ランを整備して中心市街地の賑わいを創出し、平成31年には、親子交流館す
くつとを開設、出産・子育て世代に対し、きめ細やかな支援を行ってまいり
ました。

令和元年には、市内高校への通学利便性向上と子育て世帯の負担軽減を図る
ため、高校生バス通学支援制度を導入するとともに、小中学校へのエアコン設
置やトイレの洋式化に努め、教育環境の充実を図ってまいりました。

令和2年には、おひさま病後児保育室や児童発達支援センター「あおぞら
園」の新設や、北部・山北保育園を統合・民営化した「童浦こども園」の開園
など、子供を産み育てやすい環境づくりに努めてまいりました。また、長時間
通学が大きな負担となっていた特別支援学校の生徒のため、福江高等学校と連
携し、「潮風教室」を開設いたしました。

令和3年には、田原区と藤七原地区のご協力により、新田原斎場の新築が完
了し、供用が開始されました。また、赤羽根中学校・泉中学校の統合や伊良湖
岬小学校の新設を行うとともに、市内において介護人材の養成や確保を図るた
め、民営化した田原福祉グローバル専門学校の運営支援や介護人材の定着に向
けた取組を行ってまいりました。さらに、ほりきり広場に引き続き、小中山地
区において、4か所の津波避難施設を整備するなど、災害に強い地域づくりも
進めてまいりました。

令和4年には、長年の悲願だった温泉の掘削が成功し、伊良湖温泉の利用が
開始され、地域全体を盛り上げる起爆剤になるとともに、渥美半島観光ビュー
ローの自立運営に向け、法人化を支援し、伊良湖温泉の活用やふるさと納税の
新たな仕組みづくりの構築に向けた取組を推進してまいりました。

特に、ふるさと納税については、全国の多くの皆様からのご支援により、東

三河の市町村でトップのご寄付をいただいております。また、新たな仕組の成果もあり、返礼品などの関連経費を除いた実質収支額につきましても、大変高い水準を維持しています。

この成果は、本市の魅力を発信し続けてくれた関係者の努力の賜物であり、深く感謝を申し上げます。

農業分野では、農業者の所得向上と持続可能な農業を実現するため、スマート農業の導入に対する補助制度を創設してまいりました。また、赤羽根地域の3園を「あかばねこども園」に統合・民営化し、子供を育てやすい環境を整備いたしました。

3期目では、まちづくり3つの柱として、「①住み続けたいまちづくり」、「②住んでみたい、訪ねてみたいまちづくり」、「③未来につながるまちづくり」を掲げました。

一つ目の「住み続けたいまちづくり」では、特定不妊治療費等の助成対象や子育て世帯への家事支援制度の拡充、病児保育室の開設、保育料や小・中学校給食費の無償化を実施し、子育て世代の負担軽減を図ってまいりました。

また、グローバル化時代に対応したA Iによる英語教育の充実や小・中学校施設のLED化を図るなど、児童・生徒が豊かに学べる環境づくりにも努めてまいりました。

福祉・医療の充実では、渥美病院や赤羽根診療所の運営支援による医療基盤の維持を引き続き行うとともに、18歳までの子供に対する通院・入院医療費の助成、高齢・障害・子育て等の各分野が相互に連携した包括的な支援体制の充実を図ってまいりました。

次に、二つ目の「住んでみたい、訪ねてみたいまちづくり」では、日本風景街道大学菜の花田原キャンパスを令和6年2月に開催し、渥美半島の取組を全国に発信するとともに、本市の花き産出額日本一の基盤を活かすため、世界に誇れる花のまち事業を新たに展開いたしました。

市民から寄せられた魅力度・知名度アップに資するアイデアを募集し、市民と協働して花のまち事業を推進するとともに、三河田原駅前にフォトスポットや花壇を設置し、本市の玄関口から花のまち田原のPRにも取り組んでいます。また、令和9年3月には、横浜で開催される国際園芸博覧会の出展が控えており、ここでも花のまち田原を官民共同で力強くPRしてまいります。

令和6年4月には、サーフィンを切り口としたサーフトOWN構想の施策の一つである「LaSea-THE SURFTOWN TAHARA」の分譲が開始されました。将来、ここでサーフィンをして暮らしたい人に選んでいただける場所として、この場所が本市の活力あるまちづくりにつながることを期待しております。

さらに、同年9月には、これまで田原の町内会5町が合同で実施していまし

た花火大会を観光資源として活用して、本市のナイト観光コンテンツの充実と観光消費拡大を図るため、新たに実行委員会形式による「渥美半島花火大会」を創設いたしました。開催時は、市内での飲食や宿泊等の消費拡大につながるなど、渥美半島を元気にするイベントとして市内外に認知されるようになってまいりました。

また、令和7年2月には、あつみの市レイがリニューアルオープンしたほか、令和8年7月からは「たはら屋台村」の実証実験が開始されました。市街地内では、連日、人の賑わいが見られており、市街地全体の活性化につながっていると実感しているところです。

三つ目の「未来につながるまちづくり」では、道路や橋りょう、上下水道、公共交通などの公共インフラを適切に維持管理し、計画的な長寿命化を図るとともに、河川や水路、漁港、港湾につきましても、機能保全や機能強化に努めてまいりました。

令和7年9月には、本市の重要な観光拠点である伊良湖地域の振興を図るため、「みなとオアシス伊良湖」への登録が実現いたしました。この登録により、国の広報媒体やみなとオアシス全国協議会などの関連ネットワークを通じて、伊良湖地域の知名度向上が期待されます。さらには、伊良湖港の耐震強化岸壁の整備や防災拠点を兼ねたクリスタルポルトの整備をはじめ、周辺の地域資源と民間活力を生かした多様な事業の展開を通じて、伊良湖地域の交流人口の拡大とにぎわい創出につなげてまいります。

また、本市の防災対策の重要な施策として、堀切地区の緑の防潮堤整備を推進するとともに、令和8年1月には、南海トラフ地震を想定した南海レスキュー訓練を実施いたしました。自衛隊による大規模な訓練が本市で実施され、陸上自衛隊のオスプレイが全国で初めて参加した物資輸送訓練や、エアクッション艇エルキャックによる道路啓開訓練のための重車両輸送訓練などが行われました。こうした実践的な訓練を通じて、本市の防災対応力の向上と、関係機関との連携体制の強化が図られました。

さらに、コミュニティ活動の拠点であり、災害時の防災拠点となる市民館につきましても、野田市民館の建替や、田原南部市民館及び和地市民館の多目的ホールの整備を推進し、地域の防災力の強化に努めてまいります。

臨海部では、令和6年11月に、本市初となるバイオマス発電施設の商業運転が開始され、現在は4基の発電施設が稼働しております。夜間に通りますと、これら4基の施設が光を放ち、渥美半島の元気を象徴するような素晴らしい景観を生み出しております。

さらに、田原公共ふ頭では、令和8年9月末に、マイナス10メートルの耐震強化岸壁の整備が完了いたしますが、この整備には、非常に感慨深いものが

ございます。

私が企画課の職員であった昭和61年当時は、石組みの港でマイナス5.5メートルしかなく、当時から、田原公共ふ頭にはマイナス10メートルの岸壁が必要だとのことから、港湾計画の改訂を大変長い年月要望していましたが、なかなか実現には至りませんでした。自ら関わった業務が、40年の時を経てここに完成する運びとなり、この度の完成には、言い尽くせないほどの格別な喜びを抱いております。

今後、20,000トンクラスの大型船舶がどんどん入ってきます。これにより企業誘致や港を活用した工業用地の展開が格段にかわり、まさに本市の活性化や元気につながってくると期待しております。

9月1日には、三河田原駅の近くの旧デイサービスセンターを改修し、商業や観光業をはじめとする市内経済の振興を図る拠点となる「田原市産業会館」がオープンいたしました。館内には、渥美半島観光ビューローや田原市商工会等の事務所が入居し、駅前を起点として、更なる地域経済の発展につながるものと確信しております。

さらに、令和9年4月には、「4年制大学のコ・イノベーション・ユニバーシティサテライトキャンパス」の開設、令和10年4月には、「サンテパルクたはら」のリニューアル、そして、令和11年4月には、福江地域で温水プールや子育て応援機能などを備えた多世代交流施設のオープンが控えています。こうした施設の整備が、渥美半島の未来につながるまちづくりに寄与し、ますます渥美半島が元気になっていくと期待しています。

最後に、市長就任以来、毎日のように訴え続けてきました「渥美半島の強靱で信号のない道路」の整備につきましたは、今年3月に愛知県が「渥美半島における防災等の政策目標達成のための一般道整備方針」を公表しました。

自動車専用道路としての「渥美半島道路」は、将来の構想として残しつつ、半島防災の実現を最優先に、国道259号等の既存道路を活用し、概ね10年から15年で半島先端地域の孤立回避や交通途絶回避を、その後は農業物流や救急搬送の定時制・速達性の確保に資するバイパス等の整備を目指してまいります。

任期中、国や県に幾度となく訴え続けてきた成果が一步步着実に進み始めたと感じております。市民の公募から、伊良湖クリスタルラインとの名称を付けていただきましたので、今後も整備の推進と渥美半島発展のために、国や県等の関係機関に粘り強く訴え続けていかなければならないと思っています。

さて、これまでの3期12年の取組をいくつか述べさせていただきました。

市民の皆様のために多くの事業を行ってまいりましたが、今後取り組むべき事業として、赤羽根市民センターを含めた周辺整備や市内3市街地を結ぶ利便

性の高い道路整備も残されているところです。

この3期を思い返しますと、就任当初から、先人の皆様により築き上げられたこの渥美半島の将来を後世につなげていくことが、市長の責務であることを自分に言い聞かせ、投資すべきものには積極的に投資をし、削減できるものは削減をし、本市の質を高めることができたと思っています。

私としては、「田原に住んでよかった」、「田原に住んでみたい」、「これからも田原に住み続けたい」と思っていただけのまちづくりが進めることができたのではと強く感じているところで、2点目のご質問でございますが、

私は、市長に就任してからこれまでおかげ様で大きな病気や怪我もせず、健康に留意しながら今日まで市長の職務を務めさせていただきました。

今も、気力・体力ともございますが、今後の市政のことを考えれば、市政のかじ取りは、渥美半島を元気にしていただける新しい力にゆだねることが適切であると考えております。

また、私は、市長に就任した時から、「可能であれば選挙を一つでも減らしたい。」という思いを持っていました。

令和9年は統一地方選挙の年となります。

1月に市議会議員選挙、2月には愛知県知事選挙、4月には愛知県議会議員選挙と市長選挙が見込まれ、市民の皆様は、わずか数ヶ月の間に4回も投票所に足を運んでいただくことになります。

選挙の機会をある程度まとめることができれば投票率の向上も期待でき、選挙に係る多大な経費の削減にもつながります。

このようなことから、私にしかできない仕事として、また、私の最後の仕事として、4月の任期満了を待たず、市議会議員の選挙に併せられるよう辞職することを考えております。

以上、私から、2点目のお答えといたします。